

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回川越市交通政策審議会										
開催日時	令和4年4月26日(火) 午後2時 ~ 午後3時50分										
開催場所	ウェスタ川越2階 会議室1・2										
出席者	別添委員名簿のとおり										
傍聴者	2名										
欠席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">東洋大学</td> <td style="width: 50%;">尾崎 晴男 委員</td> </tr> <tr> <td>川越市議会委員</td> <td>樋口 直喜 委員</td> </tr> <tr> <td>川越商工会議所</td> <td>竹澤 穰治 委員</td> </tr> <tr> <td>埼玉県川越警察署交通課</td> <td>木暮 尚巳 委員</td> </tr> <tr> <td>公募委員</td> <td>落合 幸子 委員</td> </tr> </table>	東洋大学	尾崎 晴男 委員	川越市議会委員	樋口 直喜 委員	川越商工会議所	竹澤 穰治 委員	埼玉県川越警察署交通課	木暮 尚巳 委員	公募委員	落合 幸子 委員
東洋大学	尾崎 晴男 委員										
川越市議会委員	樋口 直喜 委員										
川越商工会議所	竹澤 穰治 委員										
埼玉県川越警察署交通課	木暮 尚巳 委員										
公募委員	落合 幸子 委員										
事務局職員	都市計画部 本間部長 交通政策課 小島課長、榎本副課長、田畑副主任、神谷主査、澤田主任										
会議次第	別紙のとおり										
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第1回川越市交通政策審議会次第 ・ 委員名簿兼出席者名簿 ・ 席次表 ・ 【資料1】 市内循環バス「川越シャトル」とデマンド型交通「かわまる」の改善について <ul style="list-style-type: none"> ・ 川越シャトルの速やかに実施可能な改善について ・ かわまるの利便性向上に向けた実証実験の実施について ・ 川越市バスマップ(第5版) 										
会議要旨	<p>【審議結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川越シャトルの速やかに実施可能な改善については、改善の方向性について概ね了承をいただくとともに、効率化の検討対象とする路線及び便の選定について、再度OD調査を実施し、バス事業者と調整しながら、次回の審議会までに詳細を決めることとなった。 ・ かわまるの利便性向上に向けた実証実験の実施については、周知・利用促進キャンペーン(運賃割引)の運賃設定、割引対象者の検討を進め、加えて、共通乗降場の設置について、運行事業者、共通乗降場の設置候補となる施設管理者等と調整し、次回の審議会までに詳細を決めることとなった。 										

議 事 の 経 過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	事務局から、当審議会は特段の理由がない場合は原則となっていることから、傍聴希望者について入室を認めてもよろしいか交通政策審議会に諮ったところ、異議はなく、傍聴希望者の入室が認められた。
事務局	1 開会
事務局	2 あいさつ 久保田会長からあいさつ
事務局	3 議事 【審議事項】市内循環バス「川越シャトル」とデマンド型交通「かわまる」の改善について、 「川越シャトル」速やかに実施可能な改善について、事務局より資料1をもとに説明
議長（会長）	何か意見、質問等あるか。
委員	交通関係は経営が大変だと思うが、経営の改善を図るためには、経費の削減と収入の増加が必要である。 差し支えなければ、川越シャトルとかわまるの収入の内訳を教えてください。
事務局	収入の内訳については、全て運賃収入となっている。
委員	市や運輸局などの補助金は入っているのか。
事務局	川越シャトルは赤字補填方式にて事業を行っている。バス事業者に運行を依頼し、運行経費に対し市が補助金を支出している。運行経費から運賃収入を差し引き、その差額を赤字補填という形で市が補助している。従って、運輸局などの補助金は入っていない。
委員	収入のうち、運賃収入のウェイトが高いのであれば、経費の削減と併せて収入の確保に尽力してもらいたい。

委員	川越シャトルとデマンド型交通かわまるの改善について、交通弱者、高齢市民等の立場から検討を進めていただきたい。
事務局	資料P 1 記載のとおり、川越シャトルの運行目的については、「高齢者や障害のある方に配慮した交通とする」とあるため、引き続き、目的どおり運行していきたい。
議長（会長）	その他、質問等はあるか。
委員	<p>これまで民間バスを補完する公共交通として長く利用されてきた中で、運行ルートの見直しが何度かあり、その中でルートが減らされたり無くなった便もある。</p> <p>例えば10時に病院に行きたいが、8時の便しかないなど。その辺りの改善も必要とは思う。</p> <p>改善の方向性として、第1段階では具体的な説明をいただいた。第2段階では、ダイヤ・路線の見直しの検討をすると思うが、その中で、埼玉医大や総合福祉センターなどの、高齢者や障害者が行きたいという時間帯、便が改善されるような余地が必要だと思う。</p> <p>速やかに実施可能な改善の中で、1便辺り4人以下の便ということで、相対的に利用が少ない便が見直し対象かと思う。これは具体的にどこか、また、市内に何便あるかを確認したい。</p>
事務局	<p>効率化が必要と考えているのは、資料P 6のとおり7便を考えている。川越シャトルは13路線を10台で運行しているため、10台分の運行ダイヤが存在する。最初に運行する便、もしくは最後に運行する便のどちらかを利用状況を見ながらカットしていきたいと考えている。両方カットしてしまうと、例えば、一日6便のダイヤの場合、始発便と最終便が切られ、4便になってしまう場合があるため、そのいずれかをカットしていきたい。そのうえでどちらを切るかはバス事業者と調整していく。</p> <p>この場では、何系統の何便という説明は避けさせていただき、次回の審議会にて説明をさせていただきたい。</p>
委員	5年ごとの見直しであり、今回見直された便が5年間利用されるため、慎重にやる必要があると思う。団塊世代など的高齢者が免許を返納し、これから川越シャトル、かわまるなどの利用ニーズが増えてくると思う。明らかに利用人数がゼロのところは見直し対象にはなってくると思うが、一度決めたことが5年間利用されるということを考え、高齢者、障害者のこれからの5年間のニーズに沿った検討が必要かと思う。

	<p>第1段階の見直しは、審議会検討後、パブリックコメントは予定しているか。また、見直し後は広報紙などで周知するか。</p>
事務局	<p>パブリックコメントについては、これまでの例から見ると、路線変更の際に実施している。第1段階の見直しは、利用が無い便の効率化であり路線変更とは異なる部分のため、パブリックコメントを実施するかについて検討は進んでいない。仮に、効率化を図り、運行ダイヤ、時刻が変わるという場合には、広報紙やバス車内等で周知を図っていきたい。</p>
委員	<p>効率化というと、市民からするとプラスのイメージ。今回実施するのは便の削減である。効率化ではなく削減するとしっかり伝えた方がよい。</p>
委員	<p>OD調査は令和3年度に実施し、コロナの影響で夜間の利用ができない時期だったと思う。令和3年度の結果だけを見て判断するのはどうか。</p>
事務局	<p>前回のOD調査は昨年6月のため、最新のデータも必要とは考えている。7月の審議会までに見直し対象路線についてOD調査を再度実施し、2つの数字を比較して、審議会にて判断いただくこともありかと思う。</p>
議長（会長）	<p>第2回審議会にて、第1段階の見直しの具体的な案が出るということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
議長（会長）	<p>令和5年3月までに改善ができていくということか。いつまでに検討すれば間に合うのか。</p>
事務局	<p>ダイヤの改正は運輸支局の手続き等が必要となる。遅くとも本年10月の審議会に諮り了承をいただきたい。</p>
議長（会長）	<p>7月、10月、あと2回の審議会での決定というスケジュールで良いか。今回はまず第1案ということ。より具体的な提案を7月の審議会でのいただき、10月には決定という段取りである。</p>
委員	<p>今回の見直しは、削減だけではなく、利用が多いところに便を増便する可能性はあるか。</p>
事務局	<p>運行の効率化という観点からすると、削減した便を利用が多い便にまわすということも効果的と考えられる。しかし、川越シャトルは13路線を10台で運行している。削減したからといって、その分を他の便に増やせるかと言うと、ダイヤとの兼ね合いで、現時点ではわからない。 事務局としては運行の効率化を図っていききたい、より乗っている便に還</p>

	元していきたいという考えである。
委員	あくまでも今の10台でやりくりするということか。
事務局	そのとおりである。
議長（会長）	便数やコストをかけた分だけ利用者の増加が見込めるかは難しいところである。 川越シャトルの見直しについては以上でよろしいか。
委員一同	特に意見なし。
事務局	【審議事項】市内循環バス「川越シャトル」とデマンド型交通「かわまる」の改善について、 「かわまる」周知・利用促進のための実証実験について、事務局より資料1をもとに説明 その後、事務局作成動画「かわまるの乗り方【制度・登録編】」を視聴
議長（会長）	何か意見、質問等あるか。
委員	改善の方向性について3つ記載があるが、認知度向上のための周知について、動画はとてもわかりやすかった。 利用促進のための実証実験については、タクシーやバス業界に影響があるのではと心配している。 期間を定めて料金を割り引くということは良いことかと思う。しかし、家族割はとても刺激的に感じている。家族割の場合、3人だと1人100円、4人だと1人70円になってしまう。期間を定めて実施ということだが、心配である。キャンペーンではあるが、料金を元に戻せるのか。 区域またぎについては、相当な距離を移動できるようになる。それを300円で行けて、また乗り継ぎで300円かかるのかわからないが、それでもタクシーの利便性や料金を考えると、大変厳しいと感じる。 区域またぎは確かに利用者の声が多くあるとは思うが、私たちの業界に影響があると思う。 最後になるが、実証実験を同時にやってしまうと、料金が安くて乗っているのか、区域またぎが便利で乗っているのかわからなくなる。実証実験

	<p>の料金割引と区域またぎについては否定的な考えではあるが、もしやるのであれば、別々で実施した方がデータの解析がしやすいかと思う。</p>
事務局	<p>資料P 1 0記載のとおり、実証実験は段階的に実施したいと考えている。まず、利用促進ということで運賃割引のキャンペーンを行い、キャンペーン終了後に区域またぎを実施したいと考えている。実施期間が重ならないように実施する予定である。</p>
議長（会長）	<p>区域またぎの料金設定はどのように考えているか。</p>
事務局	<p>具体的に詰め切れてはいない。審議会場で意見をいただきながら決めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>先ほどの動画は、かわまるの車体の色が青みがかっているように見える。実際には違う色かと思う。</p>
事務局	<p>プロジェクターの照明が反射し、見えづらかったのかと思う。かわまる本来の山吹色で動画作成をしている。</p>
委員	<p>かわまるは半分以上が知らないという調査結果であった。かわまるは、ある意味では生活保護的な色彩もある。実証実験の運賃割引である家族割は話題性がありそれなりの意味はあると思う。しかし、キャンペーン後はどうなるのか。話題性は素晴らしいが、持続可能なPRを兼ねた割引方法を考えて欲しい。</p> <p>PRとしては、家族割の対象者を広げてみるのはどうか。同居の家族だけではなく、友人や親戚にも声をかけ、相乗りをした場合には料金を1割引きするなど。</p> <p>また、かわまるを利用した人が知人に紹介するのが一番効果があり、知人同士が誘い合って行けるのが良い。広報誌も一般的な方法ではあるが、一番良いのは、地域の人が口コミで広めることである。</p> <p>民生委員や自治会の役員など、地域で活躍している人にPRしてもらうのも良いのではないか。</p>
委員	<p>視聴させていただいた動画は完成形なのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。意見をいただければ部分修正などは可能である。</p>
委員	<p>目や耳が不自由な方がいるため、字幕や手話通訳などをつけると良いのではないか。</p>

事務局	<p>今回の動画を流しつつ、併せて字幕や手話通訳の制作も進め、完成次第差し替えるといった対応も検討していきたい。</p>
委員	<p>5点ほど意見がある。</p> <p>川越シャトルやかわまるは、民間のタクシー、路線バスの補完的な位置付けで運行しているかと思う。改めて民業圧迫にならないよう利用促進を図っていただきたい。</p> <p>かまわるの収支についての説明はなかったが、利用が増えるほど市の補助金支出が増えるのか。これは川越シャトルにも言えること。収支を意識して欲しい。</p> <p>かわまるの動画はとても良かった。</p> <p>土日に使うケースを増やしたいのであれば、動画作成やPRをしていく中で、利用者目線に立った、具体的な利用モデルを示した方がイメージしやすい。</p> <p>配付資料のバスマップには、かまわるの情報は掲載されていない。こういった広報物などを活用し、かまわるの周知をされると良いのでは。</p> <p>埼玉県においても地域公共交通の活性化を支援している。今回のかまわるの利用促進に活用できるのではないか。</p> <p>基本的には、民間のバス、タクシーの補完的な位置付け、また、高齢者、交通弱者の方々を救っていくという観点から進めていっていただきたい。</p>
事務局	<p>埼玉県における地域公共交通の支援策について、是非活用させていただきたい。また、かわまるの役割、民間の路線バスの補完という立場を改めて認識したうえで、審議会の意見をいただきながら運賃引き等を実施していきたい。</p>
委員	<p>タクシー事業者はコロナの影響などもあり、業績が厳しい。その中で、便利で安いかわまるがより便利で安くなるのはどうなのか、という意見は最もである。しかしながら、市民感覚ではより安く便利な物を乗りたいというのはそのとおりかと思う。</p> <p>一般的にタクシーは高い。いつでもどこでもタクシーを使える人はそんなにいない。障害者、高齢者、子育て世代はお金持ちが多いわけではない。コロナで収入も減っている。そこを補完するのがかわまるである。</p> <p>タクシー、バス事業者をなくしてしまうような乗り物になってしまったら本末転倒である。その当たりをしっかりと連携しながら、補完できるかわまるを模索していただきたい。</p>

事務局	<p>かまわるの予約はスマートフォンからでも可能か。</p> <p>可能である。</p>
委員	<p>若い方はより便利に使いたいという意見があるため、動画について、今後予約編を制作されるかと思うので、予約方法などわかりやすく載せていただきたい。</p> <p>資料P10記載の乗降場サインの大型化については、全ての乗降場について実施するのか。</p>
事務局	<p>最初に運行を開始した地区3から実施していきたいと考えている。しかしながら、施設によっては大型化をしないで欲しいという意見もあるかと思うので、できる施設から実施していきたい。</p>
委員	<p>設置当初、乗降場サインは小さくてどこにあるかわからなかったため、わかりやすく見やすくなってくれば良い。</p> <p>設置には費用もかかると聞いている。順番に進めていって欲しい。</p> <p>キャンペーンについては、特に家族割がメインかと思う。旅行やレジャーで利用できれば良い。実施時期が夏休みだと効果的だと思うが。</p>
事務局	<p>かわまるの実証実験については、今回の審議会で方向性をいただいた後、7月の審議会にて実証実験の内容を決める。その後、運輸支局等への届け出や市民への周知・広報を行うため、概ね10月上旬頃から実証実験を開始し、そこから2箇月程度を予定している。キャンペーン終了後、区域またぎの実施となる。</p>
委員	<p>家族割は、できればレジャーなどで使えるような周知を工夫して欲しい。</p> <p>認知度向上ということで、開始当初は地区ごとで説明会を実施していたと思うが、自治会館、老人クラブなどで講習会などは実施するのか。</p> <p>区域またぎも2箇月程度の実施なのか。</p>
事務局	<p>その予定である。</p>
委員	<p>以前、重複予約をし、キャンセルした件数は5割程度と伺ったが、現状はどの程度なのか。</p>
事務局	<p>令和3年度の予約成立率は約7割。3割が希望の日時に乗れていない。</p>

委員	<p>開始当初に比べれば、重複予約によるキャンセルは相対的には減ったのだと思う。もしくは、利用者が固定化されてきたのか。使いやすくなったのであれば良いかと思う。</p> <p>区域またぎの利用について、地区3や地区2の人が埼玉医大に行きたい、というのが市民感情ではないか。タクシー事業者が厳しいというのは重々承知しているが、市民の単純な感情としては、そういったニーズがある。今後の更なる検討段階として、必要ではないか。</p> <p>共通乗降場はいくつ設置されるのか。資料P15、16記載のとおり、区域境に数カ所設置されるだけであれば、そこまで利便性は向上しないのでは。駅などの主要なポイントまで行けるのであれば便利だが。</p>
事務局	<p>地区1と地区2の間降場は1つ。地区1と地区3も1つ。地区2と地区3も1つを考えている。複数設置するとわかりづらくなる。</p>
委員	<p>場所は決まっているか。</p>
事務局	<p>場所については、本審議会で方向性をいただき、施設管理者に打診をしていきたい。ただ、共通乗降場には車両が2台来てしまうため、施設管理者に対し、電話にて打診を行っているところである。このため、審議会の場で共通乗降場の場所を議論いただいた後に、正式に打診をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>便利に乗りたい、というのが単純な市民感情。市中心部を除いて、埼玉医大に行きたい方が多いというのは、やはり高齢者、障害者の利用が多いということ。単純に市民は便利に乗りたい。市は民間業者との板挟みだと思うが、より良いものにしていただきたい。</p>
委員	<p>コロナで大変厳しいというのもあるが、地区またぎや運賃割引がこのまま定着してしまうのは、すごく警戒している。</p> <p>家族以外の人と乗り合いをして割り引くという意見もあり、市民の方に便利に使っていただくことは良いことかと思う。ただ、タクシー業界は、障害者や高齢者が利用しやすいよう、車いすのまま乗れる車両や、乗務員へはユニバーサルデザインタクシー研修を受け、車の乗り降りを手助けできるように講習会を実施している。値段は高いが、タクシーを使っていたければと思う。</p> <p>行きたい場所や病院などへの直接乗り入れについては、それは路線バスの役割だと思う。かわまるはコミュニティバスの補完的役割であるため、直接目的地まで行ってしまうというのはどうか。そこを大幅に変え、利便</p>

	性を求めるのは市民サービスではとても良い話だとは思いますが、バランスを見ながらお願いしたい。
委員	<p>割引きは市民にとってはありがたいことではあるが、いったん慣れてしまうと500円に上げるのが難しくなる。</p> <p>確認だが、かわまるの座席について、コロナの関係で座席感覚は空けているのか。</p>
事務局	特に空けてはいない。
委員	<p>家族割を行ったために、普段から利用している人が使えないということが起きないように。あくまでも、役割をしっかりと認識したうえで実施して欲しい。</p>
議長（会長）	他に意見はあるか。
委員一同	なし。
議長（会長）	<p>期待と心配と両方あることがわかった。</p> <p>次回の審議会にて決定したいということであったため、事業者と調整し、成案を作成していただきたい。</p>
事務局	<p>今回は、キャンペーンと実証実験という表現をしているが、キャンペーンはあくまで限定的。実証実験はうまくいけば続ける、という使い分けでいいか。</p> <p>利用促進キャンペーンは、期間は2箇月程度を考えている。運賃については、本格的に300円にするということは考えていない。</p> <p>区域またぎについては、本格運行が前提ではなく、まず実証実験をしたうえで、効果検証を審議会で行っていただく。効果があると認められた場合に、本格運行をしていきたい。</p>
議長（会長）	<p>事業者と調整し、次回の審議会で決定できるような案を出していただきたい。</p> <p>4 その他 川越市自転車シェアリング事業の紹介動画を視聴</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>